

(3) 水産動物の種苗の生産、放流及びその育成に関する平成27年度計画について

① 放流計画

対象魚種	26年度計画 (大きさ)	27年度計画 (大きさ)	放流海域	33年度目標放流量 (第7次基本計画)
まだい	940千尾 (60 mm)	1,000千尾 (60 mm)	全 県	1,000千尾 (60 mm)
ひらめ	880千尾 (80 mm)	940千尾 (80 mm)	全 県	940千尾 (80 mm)
まこがれい	460千尾 (40 mm)	460千尾 (40 mm)	東京湾	460千尾 (40 mm)
あわび	1,600千個 (25 mm)	1,600千個 (25 mm)	全 県	1,600千個 (25 mm)
くるまえび	6,000千尾 (30 mm)	6,000千尾 (30 mm)	東京湾	6,000千尾 (30 mm)

② 技術開発計画

ア 種苗生産

対象魚種	実施機関	実施時期	取り組む課題
まだい	水産総合研究センター	5～7月	・より良質な種苗の育成方法の検討 (半粗放的種苗生産技術の検証)
ひらめ		3～6月	・天然親魚の養成技術の確立 (水温、日照調整、雌雄比等の検討) ・体色異常魚の出現防止 (アルテミア給餌方法の改善による黒化率低減技術の検討)
まこがれい		12～6月	・早期採卵にむけた親魚確保 (親魚の周年飼育試験、成熟促進試験) ・水温による成長促進効果の検討 ・異形魚の出現防止 (尾鰭欠損の防除技術開発)
あわび		周年	・マダカアワビ種苗生産の疾病防除のための改良技術の検証 (淡水浴した生海藻での親貝養成、稚貝飼育における紫外線照射海水の使用)
くるまえび		公益財団法人 千葉県水産 振興公社	10～3月
	4～9月		・安定生産・早期採卵に向けた種苗生産体制の整備 (親エビの確保、防疫対策の徹底)
あさり	水産総合研究センター	4～3月	・天然採苗による種苗の大量確保技術の開発 (敷設材の設置方法の検討)
はまぐり		6～3月	・着底期以降の稚貝の飼育技術の開発 (飼育水温の検討) ・中間育成技術の開発 (冬季加温飼育の有効性の確認) (天然海域での中間育成技術の検討)
ばい		5～11月	・量産化に向けた種苗生産技術の開発

イ 放 流 調 査

対象魚種	調査内容	計 画 の 概 要
まだい	放流効果	・ 市場調査及び放流効果の解析
ひらめ	放流効果	・ 市場調査及び放流効果の解析
まこがれ い	放流技術開 発	・ 生態的知見に関する調査 ・ 尾鰭を指標とした混入率調査及び放流効果の解析
あわび	放流効果	・ 一般漁場及び造成漁場（放流漁場）における回収状況の把握
とらふぐ	放流技術開 発	・ 標識放流による放流魚の移動・分散の把握